

## 第 17 回鯖街道ウルトラマラソン 参戦記

西川 剛

今年で11回目の参加となる鯖街道ウルトラマラソン。今年も昨年と同様に、宮古島トライアスロン後の出場となりました。どれだけのタイムで 76 キロを走りきることができるか！？今年も、宮古島大会から約 1 ヶ月と 1 週間後の鯖街道 UM 参加となりました。リザルトは 7 時間 2 分 42 秒と昨年より約 8 分遅れとなり、6 時間 36 分代の自己ベスト記録には遠く及ばず誠に残念な結果となりました。

今年もヤサカ観光さんのバスツアーを利用した参加で、午後 2 時に京都駅八条口出発。バスの中で出場者の名簿をチェック。午後 4 時 30 分に小浜せくみ屋ホテル到着。受付前にスタート地点の泉町商店街に行くと、当日スーパード担当の宿院さん、小島さん、一三さんらが新調の横断幕「鯖街道ウルトラマラソンスタート」を設置中。ほんの少しだけお手伝いさせていただきました。スタッフの皆さん明日はお世話になります。その後はおみやげの鯖缶を購入し、ホテルで受付を済ませました。(ゼッケンNo.386)その夜はホテルの夕食と瓶ビール 2 本を消費し、午後 9 時半に就寝予定のはずでしたが、熟睡できず、夜中に何度も目を覚ましました。

大会当日は午前 4 時半起床。朝食は以前ほど食べれないようになりました。(そういえば、10 年前は茶碗 4 杯ぐらいお替わりしてましたからね！！)午前 5 時 30 分荷物を預けに台場浜公園に向かい、その後スタート地点へ移動。前列で午前 6 時のスタートを待つ。昨年の優勝者竹之内正臣君も出場予定のはずだが、彼の姿はない。どうしたのか？するとスタート 10 分前に彼の姿が！！聞くとところによると当日の朝、車で小浜にやってきました。午前 6 時スタート！！「1 年間ホンマ早いなあ〜。」信号機までの 200m だけはトップ。しかし、即座に竹之内君に抜かれてしまいます。彼のフルマラソンベストタイムは 2 時間 33 分。今やフル、ウルトラ界では上位常連者の一人です。正直、現在の私では「ちょっとこれにはかなわんなあ〜。」といったところ。9.4 キロ AS で 41 分(トップとの差 4 分)15 キロ AS で 70 分とほぼ例年通りのペースで伊藤弘一さん(昨年 4 位)と並走し、2 位をキープ。根来坂峠への登山口でトップとの差が 10~15 分とのこと。根来坂峠の上りに入り、やや例年よりキツサを感じるようになり、2 年前のような勢いのある走りができていることに気付く。山道をぬけ、一旦未舗装の林道を走り、バナナと水分を補給。高島トレイルの道標を過ぎたあたりで、軽快に走る佐藤選手に抜かれてしまう。「まだ、先は長い。あせるな。」しかし、あせる！！…それにしても彼も速い、焼尾地蔵からの舗装林道からは一気に見えなくなってしまい、百里小屋 AS、山本酒店 AS で 4 分~7 分程の差をつけられてしまったようである。この間の下り基調のロード走では、自分の走りのスライドの短さを痛感し、時折脛には痙攣が…練習不足と加齢によるものか？久多の AS で 3 時間 27 分。例年より少し遅めであるが、昨年よりは 2 分早い。)、ご用意いただいているおにぎりも口にすることなく、ドリンク、昆布&梅干、バナナミックスでオグロ坂峠目指して先を急ぐことにしました。後から、追ってくるランナーはいない。林道入口付近のカメラマンに余裕のカメラ目線を送ることもなく、ガ

レ場の林道をややつたない足取りで走る。鯖街道の標識を超えて九十九折の本格的な登山道に入る、上るにつれ、周りの木々が変化していくのが目を楽しませてくれる。本当に五月の新緑と木漏れ日が美しい。私の中ではこれも鯖街道の楽しみの一つです。しかし、オグロ坂峠に到着して、八丁平に向かう下り基調の湿原を走り抜け、高木さんの八丁平 AS を目指すが、スピードが全然出ない。足場の悪さを痛感、足が前に出ない。痙攣！！…そんなわけでいつもはパスする冷たい冷やし飴を少々いただくことにしました。この先は、『迷いのフジ谷峠』分岐点です。この時、誘導の朝倉さんの幾度にもわたる「西川君かあ～」の呼び声に応える余裕は全くなく。疲れ始めた足で、杉林を下りますが、膝痛発生でスピードが出ない。「はよ、終わらんかな。もうやめたいわ～」と思いながら、尾越、大見 AS に到着。コーラーをいただき、山根さんに前のランナーとの間隔を確認すると本 AS 通過は 3 分程前とのこと。どうやらフジ谷峠で道に迷ったらしい。2 位奪還と杉峠と目指し、ガレ場の林道を走ります。この時点(残り 20 数キロ)で自己ベストの可能性が薄いことに気づき、少し気落ちしてしまいました。杉峠 AS に到着すると 2 位の佐藤選手発見。「まだまだあきらめたらあかんな～」と花背峠をひたすら下ります。ここで加速して一気に引き離しをかけたいたるところですが、なかなかうまくいきません。並走が続きます。しかし、しばらくして佐藤選手が見えなくなり、いつのまにか 2 位浮上。このまま行ければと思っていたのですが、さすが 2 時間 30 分代のエリートランナー！！鞍馬辺りで軽く走り去ってゆきました。鞍馬の木の芽煮商店やみやげも商店に映る私の走る姿は、惨めなもの。全くキレがない、ドタドタ走りです。久保さんエイドでの休息もそこそこに、先を急ぎます。途中、坂尻さんとすれ違い、市原 AS へ。「やっと帰ってきた。あと 9 キロちょっと。いつもの練習コースだ。」しかし、ここからが一番シンドイ。いつ抜かれるかわからない状態。油断はできない。案の定、高橋付近で振り返ると伊藤選手の姿発見。「ヤバイ！！」松田さんの西賀茂橋 AS はパスし、宿院さん作成のビールの絵入り距離表示を心の頼りにゴールを目指します。とにかく逃げ切ることを考えていました。出雲路橋を西に渡り、あと 1 キロ！！葵橋を走り抜けあと 200m。ゴールが見えました。私のゴール告げるアナウンスとゴールで待つ綱村実行委員長をはじめ多くのスタッフの方や家族の温かい拍手が今年も聞こえてきました。今年には本当に辛く、いつものように笑顔でゴールというわけにはいきませんでした。3 位でゴールテープをきりました。結果はともかく今年も新緑美しい鯖街道を完走し、ここに戻って来れたことに喜びを感じることができました。「今年も帰ってきたよ～！！」とそんな思いでいっぱいになる素晴らしい大会。一選手としてスタッフの皆さんには、厚くお礼を申し上げます。

今年には特にレース前から KTC の HP で準備状況からレースレポートまで写真入りで逐一アップされ、参加者も大会までのモチベーションを上げたのではないのでしょうか？また、管理人様によるレースレポートにより、多くの参加者がこの大会の余韻に浸れたのではないのでしょうか？ネットを通じ、本大会が日本全国の参加者から親しまれる大会として一歩進んだように思います。(KTC の HP 毎日見ってます。管理人様ありがとうございます。)

私自身、トレーニング不足感を痛感した今回の鯖街道でしたが、ボランティアスタッフ皆様、選手の皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。